

フランク・コーVirginius Frank Coe (1907 リッチモンド ~ 1980 北京)という人がいました。米国 財務省で要職につき、ドル基軸体制(IMF、世界銀行、金ドル兌換体制)を創った1944年のブレトン・ウッズ会議で重要な仕事をしています。そして1946年には、IMF理事になっています。この人は1952年 ソ連のスパイとして弾劾され、IMF理事を辞任、監視されていたようなのですが、なぜか中華人民共和国へ行き、毛沢東のブレインになっていたようです。

ハリー・デクスター・ホワイトを含めて、この時期にばれたソ連スパイは多かったのですが、この人の場合、北京に逃げてます。パスポートも出さなかったようなのに、よく渡航できたな?? 密航でしょうか? これもまた、不思議なんです。

なにより、驚くのが、このフランク・コーが、毛沢東の あの凄惨な数千万人ともいわれる大量餓死を生んだ「大躍進政策」(1958~1961)を計画したという情報があることです。ちょっと信じがたいので、もう少しちゃんとした証拠・証言がなければ確信はできないのですが、そういう情報があることはあります。ただ、1960年代の日本でもルイセンコ説や社会主義的科学などが宣伝されたりしておりましたので、そういう「学問」の人だったのかもしれませんが。

もう一つ不思議なのは、このフランク・コー氏は文化大革命の粛清の嵐もなんのその、、長命を保って北京で1980年に逝去しています。

このフランク・コーを中心とした北京亡命外国人ブレインのサークルには、ソロモン・アドラー(Solomon Adler 1909英国リーズ - 1994 北京)がいます。このアドラー氏は第二次大戦後の中華民国でのハイパーインフレを引き起こした人のようですね。そのために米価は五〇〇倍以上になり国民党政府への信頼は失墜、共産党が有利になりました。

この人が北京へ行ったのは1962年ですから、「大躍進」とは直接の関係は薄そうです。ただ、その後の文革を気にせず、北京で悠々と生活、85歳で、1994年に北京で逝去しております。